# 各務小だより

各務小学校
校　　報　２月号
令和４年２月１日

## 今、やり切ることを

校　長　　松原　里佳

暦の上では春を迎える頃となりましたが、例年にない寒さの冬を過ごしています。けれども、校庭の木々の芽の膨らみや、土の中から顔を出し始めている草花の小さな芽をみると、春を迎える準備をしていることを実感します。

２月に入り、今年度も２か月を残すのみとなりました。どの学年も、４月に掲げた学級目標を大切に、成長してきました。これからの時間は、進級・進学に向けて、「何をやり切るのか」「どのような力をつけていくのか」を、学級で具体的に決め、取り組んでいきます。「こんなことができるようになった。こんなことを頑張った。」と胸を張って言えるよう、時間を大切に使っていきます。

学校の教育目標と合わせて、子どもたちの頑張りを、「頑張り大賞」「学級チャレンジ賞」「やりきり賞」として認めてきました。「各務学習ノート」が終わった子は、学習の様子を話してくれます。２年生の子どもたちは、かけ算九九を頑張り、校長室で一人ずつ検定を受けています。それぞれが目標をもって頑張っている様子や、達成して嬉しかった様子が、表情や言葉から伝わってきます。３年生は、給食の配膳が早くできるようにと、毎日時間を計って、「学級チャレンジ賞」を目指しています。校長室前の廊下で、友達に「ここに名前がある！」と、嬉しそうに話している姿も見られます。「ボランティア手帳５０回達成」の掲示もあります。１年生と５年生は、すでに、全員が達成しています。校長室前の廊下には、頑張った姿が一杯です。頑張りを増やすと同時に、目標を中途半端にして終わるのではなく、最後までやりきって３月の最後を迎えてほしいと思います。ぎりぎりになって焦ったり、「やっぱりできなかった。」と不完全燃焼で終わったりするのではなく、計画的に取り組む力もつけていきたいものです。

先日、６年生が５年生に「たて班活動」の進め方について教える、引継ぎ会が行われました。６年生は今までの経験から、具体的で丁寧な説明をしていました。十分に準備をしたのでしょう。「一生懸命に話を伝えよう、聞こうとする時、自然に頭が寄り、説明の道具として手が動く。聞いてうなずくときにも手は動く。」と読んだことがあります。まさにその通りの様子でした。今までの頑張りを、期待とともに、引き継いでいたのではないかと思います。４年生は、「総合的な学習」で学んだ「福祉」について、３年生に発表する準備を進めています。

新型コロナウイルス感染症に関わっては、オミクロン株の急激な感染拡大から、岐阜県も現在、「まん延防止等重点措置区域」の指定（～２／１３）を受けています。先月の学校だよりでお知らせしましたが、学校では、「感染症対策に心がけ」、「状況を見ながら」、「できる範囲で」という考えのもと、様々な活動を再開（体育館での全校集会、高学年の調理実習等）し始めたところでした。今回の指定から、学年末の参観日・学級懇談会を中止することは、残念でなりません。学校内では、これまで同様に、基本的感染防止対策の徹底を継続していきます。「冬来たりなば春遠からじ」、確実に春は近づいています。コロナ禍ではありますが、「この困難な状況を乗り越えれば、やがて希望に満ちた時期がきっと来る」ことを願ってやみません。引き続きのご理解ご協力をよろしくお願いします。